

ウェルビーイング・SDGs推進事業実行委員会総会 次第

令和7年8月22日（金）午後1時～午後4時30分
251会議室

- 1 開会
- 2 議長選出
- 3 議事
第1号議案 ウェルビーイング・SDGs推進事業
助成金交付申請第二次審査（プレゼンテーション）
- 4 閉会

ウェルビーイング・SDGs推進事業実行委員会第3回総会 議事概要

1 日 時 令和7年8月 22 日(金)13:00～16:30

2 場 所 品川区役所第二庁舎5階 251 会議室

3 出席者 委員 4 名、監事 2 名、事務局

4 議 事 (1) 第 1 号議案

ウェルビーイング・SDGs推進事業助成金交付申請第二次審査(プレゼンテーション)

6 事業者によるプレゼンテーションが行われ、各委員から質疑応答がなされた。

審査員が各評価項目について採点を行い、全審査員の総合評価に基づき、選定。

(評価項目:事業目的(必要性)(20 点)、内容(有効性)(30 点)、実施体制(15 点)、
成果(15 点)、コスト(10 点)、将来性(10 点))

①評価点の考え方について

審査員の採点を評価項目ごとに平均し、提案事業ごとに合計点を算出し、評価点とする。

②最低基準について

評価点 100 点満点中 60 点を最低基準点とし、最低基準点を満たさない場合は原則選定しない。

審議の結果、別紙のとおり決定した。なお、助成金額については、表決により別途決定した。

①第二次審査通過・選定 6 事業

②第二次審査不選定 なし

事業概要＜①目的 ②内容 ③事業計画[実施場所]＞		
事業者名	助成金額 (総事業費)	主なSDGsのゴール
株式会社 タンソー マンGX	申請事業名：中小企業向けAI電気相談所設立プロジェクト ①・電力コスト高騰と脱炭素要請に直面する区内事業所の温室効果ガス排出量の把握を支援する。 ・脱炭素施策の意思決定期間を短縮し、中小企業の競争力と区のネットゼロ目標を同時に加速させる「品川モデル」を確立し、区内全域への水平展開を図る。 ②品川産業支援交流施設 SHIP オープンスペース等に iPad 端末を常設し、「AI 電気相談コーナー」を設置する。利用者が電気やガスの明細書を端末からアップロードすることで、AI が 60 秒以内に CO ₂ 排出量と電力コスト推移を自動可視化（使用電力量と料金推移、CO ₂ 排出量と削減可能量、最適な再エネ・省エネ手段、該当する補助金制度）を行う。 ③9 月～11 月：準備（サービス設計、設置場所調整、AI 開発等） 11 月～：AI 電気相談コーナー稼働開始〔品川産業支援交流施設 SHIP（予定）〕 1 月：「AI×電力コスト削減」説明会開催〔品川産業支援交流施設 SHIP（予定）〕 1 月～2 月：成果確認 2 月：成果共有イベント開催〔品川産業支援交流施設 SHIP（予定）〕 助成期間終了後：再生可能エネルギー・省エネ設備導入支援やコンサルティングにより収益を確保する体制を整え、サービスの持続可能性を担保する。	
	¥2,000,000 (¥2,500,000)	    
ノバルス 株式会社	申請事業名：高齢者ヒヤリハットサポート事業 ①独居高齢者の生活異常を早期に検知し、自宅でも安心して暮らし続けられるよう支援する。 ②事業者の既存製品「みまもり電池」（センサー・通信機能を内蔵した電池型 IoT デバイスと、高齢者が日常的に使う機器を用いて高齢者の安否を確認するサービス）において開発中のヒヤリハットアラートについて、検証を行い、独居高齢者が自宅でも安心して暮らし続けられる支援システムを開発する。 ③7 月～9 月：準備（実証内容の詳細協議、在宅介護サービス利用区民を対象に参加者募集、実証機材準備等） 10 月～：実証機材設置、実証開始〔実証実験協力者自宅〕 11 月：中間検証（ヒヤリハットアラート検知内容・精度・通知タイミング等有効性確認） 1 月：実証機材回収、分析 2 月：結果集約 助成期間終了後：実証実験協力者へのアンケートによりシステムへの満足度を向上	

	させるとともに、データとの照合により誤検知率の改善により、事業化し収益化を図る。
	¥1,968,000 (¥4,656,000) 3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを
エフバイタル株式会社	申請事業名:「子どもの強み」をAIで発見!? 品川 Style 親育ち講座 ①AIによる「個性発掘」「個別最適のペアレンティング」技術、人材育成のノウハウ・ネットワークを用い、品川区が推進している「親育ち」事業を活性化し、保護者に楽しみながら医学的・発達的に正しい知見を提供し、「子どもが安心してチャレンジできる環境づくり」に取り組む。 ②スマートフォン（動画撮影）を使って子どもの個性を発見し、その子一人ひとりにあった関わり方を提示できるAI技術を使う体験会および「親育ち」（ペアレンティング）講習会を実施する。あわせてWEBでの情報発信を行い、参加が難しい対象者へもアプローチする。 ③9月～10月：準備（区内パイロット調査、企画・会場決定、特設サイト開設準備、アプリ追加開発） 11月：ひとり親向け「親育ち」講座・体験会［こみゅにていぷらざ八潮（予定）］ 12月：次回企画調整、特設サイト開設 1月：共働き向け「親育ち」講座・体験会［きゅりあん小ホール（予定）］ 1月～2月：データ解析、成果まとめ 助成期間終了後：参加費を設定してのイベント継続や、一部機能のスマートフォンアプリ化による自治体への導入を図る。
	¥4,997,000 (¥8,046,380) 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう
株式会社HATHM	申請事業名:スポ超式・運動神経向上プロジェクト ～「運動音痴」をなくす!次世代キッズスクール創設に向けた実証事業～ ①トップアスリートの専門的知見を活用した「運動体験の質の向上」が、子どもたちのウェルビーイングにどのような良い影響を与えるかを検証する。取得したデータに基づき、令和8年度に「スポ超キッズスクール」を本格開校し、地域に根差した持続可能な教育モデルを構築する。 ②8月のキックオフイベントとそれに続く月次ワークショップを通じ、参加児童の運動能力や自己肯定感の変化を測定・分析する。 ③6月～8月：準備（協力アスリート・企業との調整、広報等） 8月23日：スポ超キッズフェス開催［東京健康科学専門学校］ 9月～：月1回のワークショップ開催［東京健康科学専門学校］ 1月～2月：実証内容評価、次年度計画策定 助成期間終了後：客観的なエビデンスに基づいた事業評価により、区内他地域や他

	自治体にも展開可能なモデル事業を構築し、収益化を図る。
	¥2,591,000 (¥3,967,780) 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう
一般社団法人 めぐもり (2年目)	申請事業名: 目黒駅前ウェルビーイング up プロジェクト ①これまで目黒駅前地域で活動を行う中で認識してきた、一人暮らしをするシニア世代の孤独・孤立や孤独を感じる若者世代の存在、子育て世帯の相互交流の不足、子どもたちの世代間交流の不足に加え、地域活動の担い手不足、防災・防犯への備え不足といった課題を踏まえ、地域において世代を超えた様々な形で交流できる企画を日常的に展開することで、地域の人々の間に「ゆるやかなつながり」を作る。 ②モーニングパーク Sunday、自由研究ゼミ、ハロウィンイベント、CCC 目黒、目黒駅前カイギ、いい運動会、算数ゲームランド、シェアガーデン収穫祭、かまどごはんの日、本の日、街焚き火などの各種イベントを実施する。助成2年目となる今年度はイベント開催時に以下のとおり取り組む。 ・ボランティアスタッフを積極的に募集し、地域でのボランティアニーズを掘り起こし、活動の担い手と出会う機会を増やす ・町会や住民団体と協力関係を結びながら開催し、活動担い手と町会・団体とのマッチングにつなげる ・CSRに関心を示す企業関係者のイベント参加等により、来年度以降の支援体制強化を目指す ③6月～2月：様々な切り口でのイベントの定期開催 [E-Park、STUDIO EASE 等] 助成期間終了後： ・イベント参加へのハードルを下げるため、参加費は可能な限り低額に抑え実施する。 ・イベントごとに参加者アンケートを実施するとともに、継続的なヒアリングにより各イベントの効果測定とブラッシュアップを図る。 ・賛助会員や企業協力の獲得に向けて働きかけ、事業継続を図っていく。
	¥1,766,000 (¥3,553,577) 3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを
株式会社 ラヴィプラス (2年目)	申請事業名: 拠点型テーマ発見コミュニティの運営 ①オンラインや公園、都度確保するスペースで活動を行ってきたが、品川区武蔵小山にオープンした拠点を通して、「遊びを通した子どもたちの自立、成長促進」「多世代との交流、共同プロジェクトの遂行による若者のキャリア支援」「親世代の交流や地域に根差した活動を通じた新たな社会接点の創出」を拡大していく。地域との繋がりをより強固にし、「場所」のコスト軽減手法の検討や、人材確保・育成へ取り組むという

	た、昨年度直面した課題へのアプローチにより、持続可能な事業モデルを構築する。 ②子どもを軸としたZ世代との活動を通して、子どもにとっての学校・家庭・塾以外の居場所を創出し、若者・大人世代含めた全世代のキャリアを思考できる拠点として武蔵小山にオープンした「しながわPlace」にて、週に3回子どもたちが遊べるスペースをオープンし、そこに集まった子どもや若者たちが遊び、交流することで自ら考え成長するきっかけを生み出す。また、2ヶ月ごとにテーマを設定し、そのテーマに沿ったイベントや活動を実施する。 ③6月～2月：週末（金・土・日）のしながわPlace運営 [しながわPlace] 月ごとのイベント運営 [しながわPlace、スクエア荏原、パークシティ武蔵小山 THE MALL、区内公園] 助成期間終了後： ・継続的なチラシ配布をベースに、SNSを通じた告知により広報活動を行う。 ・参加者へのアンケートにより、子どもたちの満足度と保護者の負担軽減を評価する。 ・地域や企業との共催により、地域での子育て支援環境の活性化につなげる。 ・子ども向け開放日以外はレンタルスペースとして運用し、収入増加・安定化を図る。
	¥3,000,000 (¥12,284,589) 4 質の高い教育をみんなに  11 住み続けられるまちづくりを 